

音楽科学習指導案

日 時 令和6年12月12日(木)
 6校時 14:05～14:50
 学校名 文京区立青柳小学校
 対 象 第5学年 組 名
 会 場 4階 音楽室
 授業者 指導教諭 金田 美奈子

1 題材名 わたしたちの国に伝わる歌や声の表現に親しもう
 (音楽のおくりもの5：教育出版)

2 題材の目標

- (1) 曲想と音色、旋律、拍との関わりについて理解するとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、歌詞の抑揚と旋律との関わりを工夫した音楽をつくる技能を身に付ける。
- (2) 音色、旋律、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったり曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いたりする。
- (3) 我が国に伝わる音楽の特徴や、人々の暮らしとの関わりについて関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞や音楽づくりの学習活動に取り組む。

3 指導事項との関連

A表現

(3) 音楽づくり ア(イ) イ(イ) ウ(イ)

B鑑賞 ア イ

※本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：
 「音色」「旋律」「拍」「反復」「呼びかけとこたえ」

4 題材の評価規準

知識・技能(知・技)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<p>知① 曲想と音色、旋律、拍との関わりについて理解している。</p> <p>知② 音やフレーズのつなげ方の特徴を拍のないリズム(追分様式)が生み出すよさや面白さと関わらせて理解している。</p> <p>技 思いや意図に合った表現をするために必要な、歌詞の抑揚と旋律との関わり、反復や呼びかけとこたえを工夫した音楽をつくる技能を身に付けている。</p>	<p>思①音色、旋律、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p> <p>思②音色、旋律、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように歌詞の抑揚と旋律との関わり、反復や呼びかけとこたえを工夫した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態 我が国に伝わる音楽の特徴や、人々の暮らしとの関わりに興味を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。</p>

5 児童の実態と題材設定の理由

そこで、本題材では、導入で昨年度学習した拍節的なリズムで構成された「こきりこぶし」を主な教材とした学習を踏まえて、2つの民謡を鑑賞し、民謡には「拍のあるリズム（八木節様式）」と「拍のないリズム（追分様式）」があることを理解する。次に音楽づくりの学習として、「商売の声」「あおやぎぶし」をつくる活動を通して追分様式の民謡について理解を深める。さらに学習コンテンツを活用して、声の出し方や節回しの面白さ、かけ声、囃子詞などに気を付けて日本各地の民謡を聴くことで、民謡と人々の生活との関わりに目を向け、音楽観の拡大を図る。

このように題材を構成することで、友達と交流しながら「人々がどのような思いでうたったのか」ということを考え、人々の生活や文化と音楽とが深く結び付いて存在しているということを理解し、生活や社会の中に存在している日本の音楽の価値に気付くことができるようにすることができるように考える。

6 教材について

「会津磐梯山」

福島県会津地方の盆踊り歌として、会津に伝わる民謡の中でも、最も親しまれている歌である。明治の初めの頃、新潟県の新潟市から来た職人が今の会津若松市を訪れた時に歌い踊った「五ヶ浜甚句」が基になっていると言われている。当時、この歌は単に「盆踊り歌」と呼ばれ、その踊りは「かんしょ踊り」といわれた。その後、会津に広まったこの歌は、各地で工夫が加えられ、やがて現在のような歌詞や踊り方の民謡「会津磐梯山」の形になった。「小原庄助 なんて身上つぶした…」という囃子言葉の軽やかさとともに、今では福島県を代表する盆踊り歌となっている。

拍節的なリズムで構成された八木節様式でできており、囃子詞が最初と最後に入っている。

「音戸の舟歌」

「音戸」は、瀬戸内海に浮かぶ倉橋島（広島県安芸郡）にある地名で、近くの呉の町とはわずかの距離だが、島と町との間は潮の流れが速く、平安時代の末ごろ、平清盛がこの瀬戸を開いたと伝えられている。この流れの速い瀬戸を上下する漁船の船頭の苦労を歌った歌が「音戸の舟歌」である。舟歌とは、海で船をこぐときに歌う仕事歌である。広島県では、漁師が船をこぐときの歌だけが残っており、「音戸の舟歌」は、漁に出る時に、「たくさん魚がとれるように」という期待をこめて、ゆっくりとした速度で歌われた。一定の拍や拍子感が無く、拍のないリズムで構成されているため、追分様式に区分される。

「商売の声」「相撲の呼び出し」

いずれの音楽も拍のない自由なリズムで構成されている。「商売の声」の音楽的な特徴からは、言葉のリズム、抑揚、反復、無拍のリズム、音階、節回しなどに着目することができる。「相撲の呼び出し」は、言葉のリズム、抑揚、無拍のリズム、節回しなどに着目することができる。また、物を売る、合図を送るといった日常性と結び付けて即興的な表現につなげることもできるため、音楽と生活といった視点からの教材化も効果的である。いずれも、生活と音楽との関わりについて考えるきっかけとなる音楽である。

「長唄『雨の四季』より」作詞／池田彌三郎 作曲／山田抄太郎

昭和42年に作曲された。四季折々の雨の情景に因んだ江戸の風物が描かれている。本題材では、茄子の苗や瓜の苗、味噌おでん、飴屋の物売りの口上の場面を取り上げている。

「あおやぎぶし」づくり

青柳小学校のよいところや景色を表すことばを使って歌詞をつくり、歌詞の抑揚を手掛かりとして旋律を付け、囃子詞（合いの手）を呼びかけとこたえで使った作品をつくる。

7 題材の指導計画と評価計画(全5時間)

時	目標	○ 主な学習内容 ・ 学習活動	評価 (評価方法)		
			知・技	思	態
第1時	曲想と音色、旋律、拍との関わりについて理解する。	○音色、旋律、拍の理解 ・前題材で学習した『子もり歌』の節回しや旋律の特徴を生かした歌い方を工夫して歌う。 ・「会津磐梯山」「音戸の舟歌」を聴き比べる。 ・音色、旋律、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取る。 ・「拍のあるリズム(八木節様式)」「拍のないリズム(追分様式)」について理解する。 ○振り返り ・我が国の民謡の特徴について、気付いたことや感じたことをまとめる。	知 (発言、記述)		態 (発言、記述)
第2時	音色、旋律、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く。	○音色、旋律、拍を生かした節回しや歌い方の工夫の理解 ・『会津磐梯山』『音戸の舟歌』を聴く。 ・歌い方の特徴や囃子詞について聴き取ったことや感じ取ったことを話し合う。 ・商売の声や相撲の呼び出し「長唄『雨の四季』より」等を聴く。 ・声の出し方や節回しの面白さについて話し合う。 ・拍のないリズムのよさを生かして「商売の声」をつくる。 ・「音戸の舟歌」と「商売の声」などとの歌い方の共通点を確認する。 ○振り返り ・「会津磐梯山」「音戸の舟歌」をもう一度聴き、八木節様式と追分様式の民謡それぞれのよさについて、自分の考えを紹介文でまとめる。		思① (発言、演奏、記述)	態 (発言、演奏、記述)
第3時	思いや意図に合った表現をするために必要な、歌詞の抑揚と旋律との関わりを工夫した音楽をつくる技能を身に付ける。	○歌詞の抑揚と旋律との関わりを知覚・感受 ・青柳小での生活の中で自分の周りに存在している言葉を考える。 ・学校の屋上から見える景色からも青柳小を紹介する言葉を考える。 ・言葉の抑揚を意識して、見付けた言葉を唱える。 ・歌詞の抑揚に合う旋律を口ずさみながら、「あおやぎぶし」をつくる。 ○振り返り ・歌詞の抑揚やつくった旋律と青柳小での生活との関わりについて、気付いたことや感じたことをまとめる。	技 (発言、音楽づくり、記述)		態 (発言、音楽づくり、記述)
第4時(本時)	音色、旋律、拍を聴き取り、それらの働	○追分様式を用いた「あおやぎぶし」づ		思② (発言、音	態 (発言、音

	<p>きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように歌詞の抑揚と旋律との関わり、反復や呼びかけとこたえを工夫した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。</p>	<p>くり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の抑揚に合わせた旋律の上行・下行になるよう工夫する。 ・自分の思いが聴き手に伝わるようにするために、拍のないリズムの表現の仕方や歌い方を工夫して表現したり、旋律の反復、囃子詞を取り入れたりする等、曲の仕組みを工夫したりする。 <p>○作品の再構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人組で各自の作品を旋律と囃子詞と聴き手に分かれて演奏する。 ・歌詞の抑揚に合う旋律の上行・下行になっているかどうかを視点として聴き合い、よかった所や改善した方がよい所について交流する。 ・友達からの助言を基に、作品を再構成する。 ・再構成した歌詞と旋律を学習カードに書く。 <p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達とかかわりながら音楽の構成を工夫したことで、自分の思いや考えがより伝わる「あおやぎぶし」になったのかどうかについてまとめる。 		<p>楽づくり、記述)</p>	<p>楽づくり、記述)</p>
第5時	<p>音やフレーズの特徴を拍のないリズム（追分様式）が生み出すよさや面白さと関わらせて理解する。</p>	<p>○作品の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表会をする。 <p>○我が国の音楽の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活や社会の中で歌い継がれている我が国の民謡のよさについて、音楽づくりの経験を踏まえて、自分の考えをまとめる。 	<p>知② (発言、音楽づくり、記述)</p>		<p>態 (発言、音楽づくり、記述)</p>

8 本時(全5時間中の第4時)

(1) 本時の目標

音色、旋律、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように歌詞の抑揚と旋律との関わり、反復や呼びかけとこたえを工夫した音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容 ・学習活動	☆ 指導上の留意点 配慮事項	□評価 (評価方法)
導入 5分	○前時の振り返り ・自分が歌詞に選んだ言葉や前時につくった「あおやぎぶし」の一部に抑揚を付けてうたう。		
展開 35分	○本時のめあての確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 音楽の構成を工夫して自分の思いが伝わる「あおやぎぶし」をつくろう。 </div> ○追分様式を用いた「あおやぎぶし」づくり ・歌詞の抑揚に合わせた旋律の上行・下行になるよう工夫する。 ・拍のないリズムの表現の仕方や歌い方を工夫したり、旋律の反復、囃子詞を取り入れて曲の仕組みを工夫したりする。 ○作品の再構成 ・3人組で各自の作品を旋律と囃子詞と聴き手に分かれて演奏する。 ・歌詞の抑揚に合う旋律の上行・下行になっているかどうかを視点として聴き合い、よかった所や改善した方がよい所について交流する。 ・友達からの助言を基に、作品を再構成する。 ・再構成した歌詞と旋律を学習カードに書く。	☆歌詞の抑揚に合う旋律の上行・下行になっているかどうかを確認しながらつくるよう助言する。 ☆日本の民謡らしくなるよう、声の出し方も工夫するよう助言する。 ☆どのような仕組みを使うと自分の思いや意図が伝わるかという観点で構成を考えるよう助言する。 ☆友達と助言し合うことで、よりよい構成を考えることができるよう、3人組での活動を設定する。 ☆各グループの活動の進捗状況を児童への声掛けを通して確認するようにする。 ☆思いや意図をもって作品をつくることができるようにするために、友達から積極的にアドバイスをもらって実際に歌って試しながら考えるよう助言する。	②音色、旋律、拍を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのように歌詞の抑揚と旋律との関わり、反復や呼びかけとこたえを工夫した音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。(発言、音楽づくり、記述)
まとめ 5分	○振り返り ・友達とかかわりながら音楽の構成を工夫したことで、自分の思いや考えがより伝わる「あおやぎぶし」になったのかどうかについてまとめる。		